

令和 6 年

総務委員会
所管事務調査 会議録

5 月 1 0 日（金）

防 府 市 議 会

令和 6 年 5 月 総務委員会所管事務調査会議録

○日 時 令和 6 年 5 月 1 0 日（金） 午前 1 0 時

○場 所 議会棟 1 階・第 1 委員会室

○付議事件 1 文化・スポーツ・観光

第二次防府市スポーツ推進計画

・進捗状況について

・次期防府市スポーツ推進計画について

令和 6 年度の取り組み

・野球場のお披露目について

・防府商業高校の甲子園準優勝 50 周年について

○出席委員（8 名）

総務委員長	高 砂 朋 子
総務副委員長	梅 本 洋 平
総務委員	今 津 誠 一
〃	久 保 潤 爾
〃	曾 我 好 則
〃	橋 本 龍太郎
〃	松 村 学
〃	三 原 昭 治

○欠席委員

なし

○委員外議員（3 名）

青 木 明 夫
河 村 孝
村 木 正 弘

○説明のため出席した者（4 名）

文化スポーツ観光交流部長	瀬 川 博 巳
--------------	---------

文化スポーツ観光交流部次長 田 村 裕 之
スポーツ振興課長 宇 佐 川 渉
スポーツ振興課長補佐 田 邊 美 幸

○出席書記

川 越 進 矢

午前 10 時 開会

○高砂委員長 皆さん、おはようございます。ただいまより総務委員会を開催いたします。
それでは説明お願いいたします。

午前 10 時 開会

○高砂委員長 おはようございます。ただいまより総務委員会を開催いたします。

本日は、閉会中の継続調査事件となっております文化・スポーツ・観光の第2次防府市スポーツ推進計画及び令和6年度 of 取組について調査をいたします。

それでは、執行部の説明を求めます。

○瀬川文化スポーツ観光交流部長 文化スポーツ観光交流部でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、所管事務調査項目としまして、まずは第2次防府市スポーツ推進計画について、続きまして、野球場のお披露目について、それから防府商業甲子園準優勝50周年記念事業につきて、スポーツ振興課のほうから御説明させていただきます。

○宇佐川スポーツ振興課長 それでは、第2次防府市スポーツ推進計画及び今年度の取組について御説明申し上げます。

まず、1点目の第2次防府市スポーツ推進計画についてです。

まず、資料1ページの第2次防府市スポーツ推進計画についてをお願いいたします。

1、計画の概要を御覧ください。

第2次防府市スポーツ推進計画は、スポーツを通じた地域づくりを推進するため、スポーツ基本法第10条第1項に基づく地方スポーツ推進計画、第5次防府市総合計画を基本とした分野別計画として策定したものでございます。

スポーツ基本法には、県や市町村は、国が策定したスポーツ基本計画を参酌して、地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとする規定されています。

計画期間を令和3年度から令和7年度までの5年間、基本理念を「スポーツを通じて地域活性 元気なまち 防府」とし、「する」「みる」「ささえる」と、多様な関わりが可能

なスポーツを通じて、スポーツの振興だけではなく、誰もが生涯にわたりスポーツに親しめる環境を充実させ、スポーツの力を活用した施策を展開することで、交流人口の拡大と地域の活性を目指しているところでございます。

(5) として基本方針を4つ掲げております。基本理念の実現に向けて、これらの4つの基本方針である基本方針1、生涯スポーツの推進、基本方針2、人材の育成、基本方針3、環境の充実、基本方針4、交流人口の拡大と地域の活性をスポーツ推進のための柱とし、様々な取組を展開しており、この基本方針に基づきそれぞれの数値目標を設定しています。

それぞれの数値目標は、基本方針1、生涯スポーツの推進については、成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%に、基本方針2、人材の育成については、スポーツ少年団の1団体当たりの指導者数を5人に、基本方針3、環境の充実については、スポーツ施設の年間利用者数を60万人に、基本方針4、交流人口の拡大と地域の活性については、合宿を行う実業団等のチーム数を10チームとしています。

次に、2ページ、2、進捗状況を御覧ください。数値目標の状況を示しています。

成人のスポーツ実施率については、今年度アンケート調査を実施することとしております。

アンケート調査は、第2次計画策定時の令和元年度に行ったアンケートと同様の調査を予定しており、成人は18歳以上の1,500人、小学5年生、中学2年生はそれぞれ1,000人、障害者は18歳以上の150人に対し、郵送や学校を通じて実施します。調査項目は、スポーツ活動の実施状況やスポーツ観戦の状況、スポーツ活動を行わなかった理由、自分の体力の感じ方などを回答いただく予定です。

スポーツ少年団の1団体当たりの指導者数については、令和3年度3人、令和4年度2.7人、令和5年度2.7人でございます。

スポーツ施設の年間利用者数については、令和3年度33万3,890人、令和4年度46万8,114人、令和5年度50万301人でございます。

スポーツ少年団指導者数及びスポーツ施設の年間利用者数については、計画策定時の数値と比べて減少しており、目標値と大きな差がある状況でございますが、これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動の自粛、大会の中止や施設の利用制限を行ったためでございます。

また、スポーツ少年団指導者については、制度変更により、認定員制度が終了した影響もでございます。

なお、スポーツ施設の年間利用者数は、コロナからの回復から増加傾向に転じておりま

す。

合宿を行う実業団等のチーム数につきましては、令和３年度１３チーム、令和４年度１２チーム、令和５年度１１チームで、目標値である１０チームを令和３年度に達成しています。

スポーツ協会と連携して合宿の誘致に取り組んでおり、主に、花王陸上競技部、黒崎播磨陸上競技部、女子では岩谷産業陸上競技部などのトップクラスの陸上競技部、バレーボールのサントリーサンバーズなどが本市において合宿を行っております。

以上が、進捗状況についてでございます。

次に、第３次防府市スポーツ推進計画についてを御覧ください。

策定スケジュールをお示しています。

令和６年度は、策定委員会を設置し、市民アンケートを実施します。市民アンケートの結果、スポーツに対する意識、小・中学生の体力、運動能力の現状、スポーツ活動の状況などから、防府市のスポーツを取り巻く現状と課題の整理を行います。特に、指導者の減少や中学校部活動の地域移行といった課題がございます。

これらの現状と課題を踏まえ、令和７年度に第３次推進計画案を作成し、策定委員会における協議を経て、議会の皆様への説明、パブリックコメントを行い、令和７年度末に第３次防府市スポーツ推進計画の策定を予定しています。そして、令和８年度に第３次防府市スポーツ推進計画の公表及び実施となります。

次に、国・県の計画についてを御覧ください。

防府市スポーツ推進計画は、先ほども申し上げましたとおり、スポーツ基本法第１０条第１項に基づく地方スポーツ推進計画の位置づけを持つものでございますので、スポーツ基本法の規定に基づき、国の第３期スポーツ基本計画、県の、やまぐちスポーツ推進プラン２０２２の内容を参酌して、本市の計画を策定いたします。

特に、やまぐちスポーツ推進プラン２０２２においては、スポーツ参画機会の充実や部活動改革の推進を新規施策として掲げられていることから、本市におきましても、これらの課題を第３次計画に反映できたらと考えています。

次に、２点目の今年度の取組についてです。

野球場のお披露目については、資料の野球場リニューアル記念事業についてを御覧ください。

現在、改修工事中の野球場は、令和６年７月２０日土曜日にリニューアルオープンいたします。当日は、まず、防府商業夏の甲子園準優勝５０周年記念行事として、市内高校の甲子園での活躍をスコアボードに表示します。その他の５０周年記念行事については後ほ

ど御説明いたします。

防府商業をはじめ、市内高校の甲子園での活躍を御覧いただいた後、市内の学童野球 12 チームが参加する東西対抗学童野球大会を行います。

開会宣言、子どもたちの入場行進を行い、未来への白球の引継ぎを行います。防府商業高校OBから学童野球 12 チームにサイン入りの記念ボールを手渡し、12 チームの子どもたちが一斉に投球します。この記念投球の後にゲーム開始となります。ゲーム終了後には、子どもたちによるツタの記念植樹も予定しています。

ゲームの方法を具体的に説明いたしますと、例えば、牟礼野球スポーツ少年団が守備、大道野球スポーツ少年団が攻撃とした場合、3アウトとなっても攻守交代はしないで、大道野球のメンバー全員が打席に入るまで攻撃を続けます。大道野球が全員で20人だといいますと、20人全員が打席に入るまで攻撃を続け、全員が打席に立った段階で守備のチームと打撃のチームが変わります。

さらに、8月24日、25日には宝くじスポーツフェアドリーム・ベースボールを県・市・自治総合センターの共催で行います。プロ野球OB選手との対戦、ドリームゲームや野球教室などを行う予定です。

次に、防府商業甲子園準優勝50周年記念事業についてでございます。資料のほうをお願いします。

「あれから50年 いつまでも栄冠は君に輝く」をテーマに、未来を担う子どもたちに、夢中になることのすばらしさを伝えるために様々な取組を行います。

具体的な取組内容といたしましては、記念パネル展示を行います。防府商業の甲子園での活躍の様子や、歓喜に沸く当時の防府市内の様子などを写真パネルで紹介いたします。6月下旬から8月31日までの予定でアスピラートで開催し、7月20日からは野球場で展示をいたします。

次に、野球場リニューアル記念セレモニーでの行事でございます。

防府商業・銚子商業野球部OBのビデオメッセージなどや、子どもたちに未来への白球の引継ぎ、甲子園のシンボルであるツタの記念植樹などを計画しています。

最後に、③市広報への特集記事の掲載でございます。防府商業甲子園準優勝までの活躍を、当時の写真やインタビュー記事などで紹介いたします。

なお、野球場のリニューアル記念事業の内容や詳細については、野球場リニューアル記念実行委員会にて協議し、進めていくこととしております。

以上で、スポーツ振興課からの説明を終わります。

○高砂委員長 ありがとうございました。

それでは、執行部の説明に対する質疑を求めます。

○今津委員 ちょっと聞くんですけど、スポーツ少年団というのはどういう組織になっているんですかね。

スポーツなら、例えば、人気があるのはサッカーとか野球とかあるんですけども、それぞれ専門の指導者がおるはずですよ。スポーツ少年団という、そういうふうなまとめた組織になると、これはどういった形での組織形成になるのか、ちょっとその辺が分からないので、教えてください。

○宇佐川スポーツ振興課長 スポーツ少年団の組織といたしましては、各いろんな球技、種目ごとに、子どもたち、指導者、親御さんとか、そういった団体がまず組織されておりまして、その団体一つ一つが、防府市のスポーツ少年団として登録されている。このまとまりというのが、防府市のスポーツ少年団という形といいますか、組織というようなものになります。

○今津委員 そうすると、指導者を何名とかいう目標がありましたよね。それぞれの団体の指導者を4名なら4名を目標にするとか、そういった考えなんですか。

○宇佐川スポーツ振興課長 今のスポーツ少年団の指導者数として、目標として今の計画で5人と掲げておりますので、今申し上げました指導者を増やしていくというところで、目標を今掲げて進めておるというところでございます。

以上です。

○今津委員 だから、それぞれのチームで指導者を5人なら5人と目標を掲げているんですか。

○宇佐川スポーツ振興課長 そうです。おっしゃるとおりです。

○高砂委員長 よろしいですか。ほかにございませんか。

○久保委員 御説明、どうもありがとうございました。

細かいことというか、あまり御指摘がないのかもしれませんが、2ページですね。合宿の実業団チーム数というのがありますが、宿泊するところというのは、サイクリングターミナルだとか、そういうところを使われるのが多いでしょうか、把握されていますか。どういったところを使われて合宿されているのか、まず教えていただければと。

○宇佐川スポーツ振興課長 今おっしゃられたように、サイクリングターミナルを使っただきたいところですし、使っているところもございますし、また、個別の企業といいましたらあれですけど、よく使われておられるのは、みやまが使われておられます。

○久保委員 分かりました。

それで、陸上で合宿されるところが多いんですけど、やっぱりあの陸上競技場を使われて合宿されるということですかね。たしか陸上競技場をちょっとよくして、グレードがたしか上がったような記憶があるんですけど、それが理由だったりしているんですか、そんなこともないんですかね。

○宇佐川スポーツ振興課長 もちろん陸上競技場のほうも使っていただきますし、そこだけではなくて、佐波川のあの県道沿いといいますかですね、そのほうを上がって徳地のほうに向かって上がっていかれるような、ああいうところを今使っています。

○久保委員 合宿を行う必要なチーム数を目標に掲げられているわけですけど、ということは、だから、いろんなそういった企業の陸上部であったり、そういったところに何かPRというのをされていくんでしょうか、その辺りを。

○宇佐川スポーツ振興課長 そうですね。何でしょう、PRというのは、結構形で外にどんどん出していくというところ、そういうのは、今はっきりはしていないかもしれないです。あまり見えてこないかもしれないんですけど。

どちらかといいますと、いろんな、競技部、チームの監督さんとか、そういったところに、陸協といいますか、そういう選手さん、監督さんとのつながりの中のその口コミとかですね、そういうところが今、実際にこの数が増えていく中では大きいのかなというふうに感じています。

○久保委員 じゃあ、ここに掲げられている花王さんとか黒崎播磨さんとか岩谷産業さんは、やっぱり口コミで、防府なかなかいいよというようなことで合宿されているということなんですかね。

○宇佐川スポーツ振興課長 市のスポーツ協会のほうのサポートといいますか、そういうところであったりというふうには聞いております。

○久保委員 合宿を行う実業団チーム数は目標を達成されているような形なんですけれど、よく思うんですけど、目標値達成したらですね、せっかくここまで来たんだから、もうちょっとじゃあ上を目指そうとか、そういう発想になったりしないのかなと思ったんですが、一応何か目標10チームになっているので、現状より下がるわけですけど、この辺りどうお考えですか。

○宇佐川スポーツ振興課長 目標は、もちろん10チームで、さらにどんどん増やしていければというところもちろんでございます。上げていければというところはもちろんでございます。

○久保委員 いや、そういうお気持ちがあるんだったら、令和5年で11チーム達成しているんで、それより上の目標を掲げられたらどうかという思いがありますが、いかがでし

ようか。

○宇佐川スポーツ振興課長 私はその方向で目指していきたいと考えております。その次の目標を掲げるときにはではございますね。

○久保委員 分かりました。ありがとうございます。

それで、下のほうに行きまして、4番の国と県の計画についての中ですが、部活動の地域移行ということが出たんですけれど、だから、やっぱり市教委は教育部がある程度関わるわけなんですけれど、こちらのスポーツの中にもこれを掲げられているということで、教育部との例えば情報交換とか、あるいは、こちらから情報提供であるとか、そういった連携というのを、教育部と部活動の、地域の話ですよ、そういったことを考えておられるかどうかということをお聞きしたいんですけど。

○宇佐川スポーツ振興課長 これまでも教育部のほうで動いておられる中で、今年度からは教委の中に入りまして一緒に考えていくというところが、今まさに始まったところでございます。

○久保委員 分かりました。それを聞いて安心いたしました。特に指導者の問題というのが多くあったかと思うので、指導者の増加も目標を掲げられているんで、それも踏まえて、より頑張っていただければと思います。

あと、ちょっと単純にお聞きするんですけど、その下に、スポーツ振興に、デジタル化の進展等を踏まえたスポーツ振興とあるんですけど、デジタル化とスポーツ振興をどういうふうに結びつけていくのか、ちょっとイメージができないので教えてくださいませんか。

○宇佐川スポーツ振興課長 2ページの下のデジタル化のところかと思うんですけど、県のほうでも考えておられて、そういったところでデジタル化、数値化といいますか、科学的というところだと思うんですけど、そういうところもまだ具体的な動きというのがないんですけど、もちろん進めていかないといけないところだと思っておりますので。

今からも目指していきたいところなり、市のほうがそういったデジタルの数値を持っているとかいうところでもないので、今の指定管理のアシックスさんが全国的に展開しておられたりするので、そういうところの力を借りながら、新しい科学的なものを取り入れていければということでございます。

○久保委員 イメージできるような、できないような……。

○瀬川文化スポーツ観光交流部長 参考に言いますと、県のほうの取組はどんなことをやっているかという、計画でデジタル技術を活用しまして、身体組成の計測とか、要は可視化してコンディション管理に生かしていくとか、あと、C I映像のゲーム分析をデジタルで使ってやるとか、あとは分析した結果、こういうトレーニングメニューがいいですよ

といったことをやっていくということを予定しております。

そのほか、e スポーツなんかもデジタルを活用したものかなと思うので、例えば、この前、イオンタウンでやったんですけど、バーチャルで、とにかく自転車は本当にこぐんですけど、そしたら、前の画面が景色、秋吉台をずっと走るんですけど、そういったものでずっと自転車が走っていくようなこともデジタルを活用したスポーツとして、県のほうも今、取組をやっております。

○久保委員 分かりました。よく分かりました。ありがとうございます。

最後です。次の3ページですね。2番、ドリーム・ベースボールの開催、さっき宝くじという言葉をおっしゃったんですけど、これ、だから、開催するに当たって、財源はそこから全て出るということでしょうか。

○宇佐川スポーツ振興課長 宝くじのスポーツフェアとしてドリーム・ベースボールを開催し、その財源として、自治総合センターとしての財源を頂いて進めてまいります。

○久保委員 だから、市の持ち出しはないということですか、どうでしょうか。

○宇佐川スポーツ振興課長 防府市のほうでは、会場費、それから運営費、開催の告知費、集客等について、また、食事とか、そういったところの費用については、市のほうが負担をする予定です。

○久保委員 お分かりになれば、それが幾らぐらいになるか教えていただければ。

○宇佐川スポーツ振興課長 詳細はまだ、今からなんですけど、予算としては200万円です。

○高砂委員長 先ほど、合宿を行う実業団チーム数のところのやり取りの中で、昨日いろいろとお聞きしたこともありますので、ちょっと次長から補足をしていただいてもよろしいでしょうか。久保さん、いいですか。私のほうで。

○久保委員 はい、いいです。

○高砂委員長 お聞きしたいと思います。

○田村文化スポーツ観光交流部次長 ありがとうございます。合宿誘致の取組について、少し補足の御説明をさせていただきます。

ただいま、こういう実業団チームの合宿誘致については、防府市スポーツ協会が大変熱心な誘致活動を行っておられます。具体的には、防府市を選定しようというふうな、キーマン、選定の鍵となる方、具体的には監督などのお役の方でございますが、こういう方に人的なコミュニケーション、アプローチをされて、継続して一度防府を選ばれた方に引き続き防府を選んでいただくということを熱心にやっておられます。

あと、もう2点ほど工夫があるんですが、2点目は、防府で合宿を開かれると、その後

の大会で、皆様、選手の方がいい成績をレースで残されるということで、非常に縁起のよいといえますか、そういった縁起のよい防府市というふうな効果も皆様にアピールしながら、より有利に誘致活動を進めてまいりたいと思っております。

加えて、防府観光コンベンション協会も、いわゆるアフターコンベンション、コンベンション活動の一環として、実際にこれから初めて防府に合宿を張ろうという方への宿泊の御様子であるとか、あるいは食事先の提供、あるいは、合宿が全て終わった後の余暇時間の観光ルートについても御提案をするなど、交流部が一体となって誘致活動に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○久保委員 ありがとうございます。すごく熱心というか、前向きに取り組んでおられるので、大変いい取組だと思います。ありがとうございます。

観光のほうもですね、観光基本計画等があって一般質問しましたけど、ニューヨーク・タイムズがどんぐらい影響があるか分からないですけど、観光のほうも力を入れていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○今津委員 第2次防府市スポーツ推進計画について、これは質問であり、かつ要望にもなると思うんですけど、ここに、4番目に基本理念として、スポーツを通じて地域活性を図ると、交流人口も増やしていくと、こういうふうなことが掲げられております。

私が要望したいのは、防府市が長年の防府読売マラソンを継続したことによって、非常に大会そのものがグレードアップして、それから、埼玉県庁の、名前何ていったですかね、川内かね、あの川内氏がよく参加してくれて、非常に盛り上がってきたと思うんですよね。そういった影響があって、市内でジョギングをする人も非常に今、増えてきているなという感じがしています。

それと、去年、私の卒業中学校である国府中学校が全国駅伝で2位になったと、非常に画期的な活躍をしておるということで、私は、過去に遡ると、貞永さんというカネボウの名選手がおられて、貞永さんがおられたことによって、例えば、高岡とか、早田とか、伊藤国光氏とかおられて盛り上がっておりましたよね。

先日、伊藤国光さんにも会って、ちょっとお願いもしておったんですけどね。今、山口県の駅伝で、代表で例年出ておるのが西京高校ですかね。私も正月、あれを見ながら応援をするんですけども、どうも万年30位ぐらいでぱっとしないわけですよね。

防府市は、そういったような過去のこういったスポーツについての伝統も実績もあるわけですから、ぜひ防府市で、陸上、長距離、こういったものを、いい成績を出して、それを、さっき言ったような地域活性と、それから交流人口とか、そういったものにぜひつな

げてもらいたいなというふうに今、思っているんです。

例えば、高川は今、かなり力入れているんですかね。ですから、行政としても、そういったところに積極的な協力と支援をしていって、全国で、正月のあれで防府市の高校が上位に入賞したというぐらいにしていくと、この基本理念も目標も達成されるんじゃないかなと思うんで、ぜひお願いをしたいところなんです、御意見をお願いできたらと思います。

○田村文化スポーツ観光交流部次長 ありがとうございます。御要望にございました陸上のその成績を伸ばして、しっかり交流人口の増加につなげてほしいというお話でございました。

議員がおっしゃるとおり、全国的にも陸上競技で非常に有力なチームがある地域というのは、地名イコール、これは陸上で大変有名なところだというふうなところで、知名度が大変高くなっているというふうなことでございます。

同様に、防府市においても、スポーツ環境をしっかりと提供することによって、選手個々の皆さんのパフォーマンスが上がることによって、今、議員の御提案があったような知名度をアップして、交流人口につなげていくという取組はしっかりとやっていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○今津委員 よろしくをお願いします。

○高砂委員長 よいですか。ほかにございませんか。

○三原委員 基本方針の人材育成のところなんです、まず、スポーツ少年団の指導者を増やすということで、今、スポーツ少年団の団体数と種目、それと、団体の推移をまず教えていただきたいと思います。

○宇佐川スポーツ振興課長 まず、スポーツ少年団の種目でございます。種目数は10種目でございます。団体数としては、令和5年、61団体。団員数としては、同じく令和5年で1,015人。推移といたしましては、団体数は、令和元年度比ではあるんですけど68から61、令和元年に対して令和5年が7減。団員数については、令和元年、1,206人から1,015人ということで、マイナス191人という状況でございます。

○三原委員 ありがとうございます。

それで、ちょっと聞いてみる。これは指導者を5人に増やすという目標だね。その5人に増やす理由は何ですか。

○宇佐川スポーツ振興課長 すみません、お待たせしました。目標の5人の理由でございますけど、現時点の計画におきましては、令和元年度の数値として、4人という数値がご

ございました——指導者数なんです。そこから少しでも、1団体当たりが4人だったものを、計画目標時の令和7年度には少しでも上げていきたいというところがありまして、5人という目標を掲げておりました。

スポーツ少年団の制度といたしまして、指導者数の人数というのは2名以上は必要というところがありまして、少しでも人材確保をしていきたいというところから上を目指したいというところで、少しでも上げていきたいというところでございます。

○三原委員　じゃあ逆に、なぜ減ってきてるんですか。

○宇佐川スポーツ振興課長　高齢化等、そういったところが主な原因かと思っています。

○三原委員　あんまり難しいことを言うと分からんようになるだろうからあれですけど、私が聞きたかったのは、令和元年度が4人だから、それに近づける5人というそんな単純な話じゃなくて、どうして指導者が5人要るのかという中身の話だったんで、それをまたよく考えてもらいたいと思います。

先ほど久保委員も言ったように、できる目標は、この目標は多分可能性的に無理な、難しい——無理とは言わんけども、難しい目標を掲げている。これ、今、言うたって、3年度からこれつくっているんだから何とも言えないかもしれないけど、逆に今、合宿のほうはやはり目標だから、高く設定してもらいたいという思いで先ほど質問されたと思いますよ。

だから、今言うたって、今度は8年度からの次の推進計画ということになると思うんですよ。ぜひ、そのときには、やはり目標は高く、そしてまた、現実的な数値を出してもらわないと、今、例えばクラブ移行を今やっていますよね。あれでも一番困っているのが指導者がいない。だけど、この指導者をスポーツ少年団で5人にするというのは、大変、これは難題もいいところだと思うんですよ。

だから、そういう点もちょっと今度は反省として加味して、次の計画では、できる計画、やっぱり向かう目標というような考え方でつくっていただきたいと思います。

以上です。

○松村委員　ちょっと分野が違ってくるんかもしれませんが、今の関連なんですけど、結局、高齢化で今の指導者がいなくなるということで、若い人が指導者になってほしいわけですね。

ところがなかなか難しいという流れの中で、でも、今回、学校の先生の働き改革の関係で中学校の部活移行になったんですけど、先生も逆に、確かに働きすぎで疲れるからやらんという人もいらっしゃるけど、逆に私はやってみたい、指導者をやりたいと、それは、今度は別の形でやれるわけですから、そういう方々にまた教育委員会を通じて、教育、学

校の中でそういう指導者をやってみんかと、やってみたい人がいないかと、延長上で、それもあるんじゃないかなと思います。

それについてちょっとお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○宇佐川スポーツ振興課長 地域クラブ移行の教育委員会との、一緒に考えていく中で、こちらからどこまで要望といいますか、意見ができるかというところはあるかもしれませんが、要は活躍していただける方、要は、動きやすいような体制を、協力できるようにというところは訴えていくというか、意見して、話をしていきたいと思っております。

○松村委員 中学校は今こういう形になっているんですけど、小学校のほうは、もともとクラブチームなんですね。先生は別にそういうことはしていないんですよ。だけど、中にはいらっしゃるんじゃないかなと思うんで、そういう人材の掘り起こしというのもいいんじゃないかなというふうに思います。中にはいらっしゃいます。

先ほど民間で今5人とか、2人足らんのかなという話もありましたけど、私の知り合いも何人かそういう指導をされている人いるんですけど、今回の部活の地域移行の関係で、責任がないところでやりたいというか、引率までできんよというか、それを、責任を押しつけると、今度、こういう指導者の方がだんだんやらなくなってくるというか、そういう意見が結構私の周りにあるので一応申し添えておきたいなと思います。

だから、そういう形でいけば、そういうところに活路を見出していくのもいいんじゃないかなというふうに思います。

いいですか、続きまして。

○高砂委員長 どうぞ。

○松村委員 今、成人のスポーツ実施率、週1で33.8%と今現在で、今後は目標が65%と1ページに書いてあります。スポーツの振興計画の本ちゃんのほうのいっぱいページがあるほうなんですけど、これの14ページには新型コロナウイルス感染症を踏まえたスポーツとの関わり方と、まさに今そういう時期なんですよ。

だから、これには施設の利用率とか色々見ますけども、もちろん新型コロナウイルスがあったので、なかなかデータが取りづらかったのかなと、その中で目標が設定値がここですよという話なんでしょうけど。

私も昔、健康づくり、健康寿命を延ばすことが本当の市民の幸せにつながるというふうに思っていて、今の厚生労働省が出しているような指針とか、そういったものもありまして、やっぱりスポーツというのは大事なんだなと。そういう中で今65%ということなんですけど、具体的にどういうふうにこういう醸成をかけていくのか。

コロナウイルスで運動しなくなった人も多分いらっしゃると思います。かなりいらっし

やると思うんですね。だから、そういう方々もこういう65%を目指してどういうふう
に具体的に今後引き上げていくのか、仕掛けですよね。その辺についてちょっとお尋ねし
たいと思います。

○宇佐川スポーツ振興課長 今も、コロナ後からのスポーツ、市でいえばソルトアリーナ
等の施設等の利用者等は延びていっている状況ではありますね。

それだけではなくて、子どもから高齢者の方までが参加といいますか、軽いスポーツと
いいますか、健康づくりのところから体を動かしていただけるような、スポーツに関わっ
ていただけるような、参加していただけるような取組として、もともと市の体育祭だった
ものが、ほうふスポーツフェスタとして今、今年で4回目なんですけど、そういったところ
でも、今までやってこなかった人も取り込んでいけるような、広げていけるような取組
をまずは今進めているところではございます。

○松村委員 具体的な方策が聞きたかったんですけど、なかなか難しいのかもしれません
が、今、市民体育祭の代わりにスポーツフェスタの話が今出ましたけど、ニュースポーツ
をやっていこうという方針だったと思います。

私も地域の体推協のほうに所属してしまして、ずっと長年、選手を探したり、出るよう
にお手伝いしたりして、野球とかバレーとか、その他の陸上関係の種目の大会をやって、
賑わっていましたが、ニュースポーツといっても漠然としてしまして、じゃあ、実際
地域でこれ広がっているのかといったら、全然そんな広がっていないんですね。

あるちょっと数人が一生懸命、今、地域でやっているんですけど、じゃあ、防府市全体
でニュースポーツが愛されてやられているのかといったら、やられていないんですね。
そういうところもしっかりやっていかないと、こういうスポーツをやろうという気持ち、
人が増えないんですね、子どもからお年寄りまでというのであれば。

その辺については、じゃあ、ニュースポーツの取組としてはどういうふうに考えている
かというのをちょっとお尋ねしたいと思います。

○宇佐川スポーツ振興課長 もちろん、まだまだこれからというところではあるんですけ
れども、今の段階ではごく一部かもしれないですけど、スポーツ推進委員さんとか、中
でもモルックとかですね、最近でいうと、トランポリンとか、前出の部分かもしれないん
ですけど、今はですね。

そういうところも、今までやったことのない方にやっていただいて、自治会活動という
んじゃないんですけど、自治会の活動の中で取り込んでいただきたいということもありま
したりするので、そういう情報、こういうことをやっているよという実績というか、紹介
というか、そういうところをもうちよつと広げていけるようなことができればなという。

実際に動きを、思いを持ってやっておられる推進委員さんはおられますので、そういうところを、楽しさとか、実際にやっているところの状況とかを発信というか、そういうところを、すみません、それぐらいのところかなと思います。

○瀬川文化スポーツ観光交流部長 あとですね、スポーツ活動というのがこの場合、単なる競技活動だけでなく、レクリエーションもしっかりですし、アウトドアもしっかりですし、あと、実はウオーキングをやってもオーケーです。ウオーキングもスポーツと考えますし、軽い体操でも全然オーケーです。

まずはそういった入りやすいところからですね、ウオーキングでもいいんですよ、ラジオ体操とか——私も毎朝やっていますけども——そういったものでもいいんですよというところはしっかりPRすれば、割と普段からそういったことをやっていらっしゃる方は、ウオーキング多いと思います。

例えば、県のほうも今、やまぐち健幸アプリというのをを使って、これ皆さん誰でもダウンロードできて、順位もわっと出ます。職場ごとにチームをつくって競うというのもできますので、まずはそういった軽いところから入れるような形をPRしたりするのも一つの手かなと思いますので、その辺はしっかりPRしていきたいと思っております。

○松村委員 今、さっき言ったウオーキングとか、そういうのも確かにスポーツだと思う、私も今そういう観点で言って、本当は野球とかサッカーとか、そういうのを社会人チームがいっぱい増えて盛り上がっているといいなというふうに思うんですけど。

じゃあ、どういうふうに、今のツールの話も今出ましたが、これは本当に知る人ぞ知るようなツールなんですよ。でも、なかなか県庁の方とかがよく使ってそういうのをやっているという話は聞いたことがあるんですけど、一般的に、本当に子どもからお年寄りまで、少しでも何かそういうふうな気持ちになるその方法というのは何なのかなと思うんですよ。

PRと言いますが、どうやってPRするか、だから、ネットでPRしたって、見ない人は見ないしですね。だから、どういう形でPRをして、そういうスポーツをしようよという、体を動かそうよというような、そういうまちづくりにつながっていくのかというのがちょっと知りたいですよ。その辺についてちょっと御答弁ください。

○田村文化スポーツ観光交流部次長 ありがとうございます。現行の今、スポーツ推進計画の理念として、「する」「みる」「ささえる」というキーワードがございます。要するに、するというのは、委員のおっしゃるように、実際にスポーツを实践される皆様でございます。ここが多く65%を超える方が皆さんスポーツに触れられるということが理想、目標でございます。

そのためにも、見る、支えるという観点も同時に発信の要素では重要と思っております。例えば、防府読売マラソンですね。沿道やテレビでアスリートが走っていらっしゃる姿を見て、自分も明日からジョギングしてみようかなというふうに思われます。そういうところもあって、今ではジョギングをされている方が、お見かけする姿が増えてまいりました。

また、ニュースポーツの観点においても、先ほど申し上げました、ほうふスポーツフェスタで実際にやっている競技、ゲームの様子をまず御覧いただくことでも、一人でも多くの方がやってみようというふうなお気持ちになれるかと思います。

PRのことについては、様々な媒体があるんですが、実際の現場や、私たちが今推進している様々な見るスポーツですね。加えて情報媒体、市広報やホームページなど様々なものがあります。一人でも多くの方にスポーツに触れていただく、見るだけではなく、やってみようというふうに思っていただけるような発信の仕方というのは、これからも、探り探りになりますが、工夫をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

○松村委員 分かりました。一言申し上げますと、ニュースポーツに関しては、その上のほうでまだ止まっている感じがするので、ぜひ地域に下ろし、地域でやってよ、やってみようよというふうに、その指導員の方にしっかり言っていただいてですね。

私も、今の自分の地区がありますけど、大会みたいなちょっとした例えば、1個でいいからボッチャでも、カーリングでも何でも借りてこれるからですね、やってみようよという話になると、いざ腰が重たくなってやらなくて、やっているのは確かにいらっしゃいますよ。私もそこへ参加したことあるんで、すばらしかったです。やったら面白いんです、やっぱり。

だから、それを広めるためにどうすればいいかといったら、見るのも大事だけど、やるのも大事、近場でやるほうがいいですね。地域・地域でやっていくという、そういうお手伝いをしっかりしていったほしいなと思います。

最後になりますけど、さっきちょっと久保委員も言っておられたかもしれませんが、スポーツ観光といいますか、宿泊のさっきお話をされていました。我々も今回、阿南市のほうへ野球をさせてもらいまして、本当、野球の取組がすごかったです。

野球でとにかく誘致、いろんな、そこは何も資源がない、観光資源があまりないんですよ、ほとんどない中で、じゃあ何かといったら野球と、野球で有名な地ですが、セミプロの選手もいらっしゃって。

そういうところでも、そういうふうな、どうやってじゃあ引き込んでいくんかといったら、やっぱり、野球も大事なんですけど、野球だけじゃなくて、地域の魅力をしっかりお伝え

したり、例えば、ただ今、泊まって練習をしたりとか試合をしたりして帰るだけじゃなくて。

やっぱり、その次につながるために、何か防府で練習してよかったと思える、例えば毛利邸の無料券を、こういった申請していただいて、ちゃんと防府で練習して試合するからと、長期で泊まりますからというような申請をしてもらったら、そういうものがもらえるとか。

例えば、観光バスとかでもやっていましたけど、1人当たり1,000円の補助金があるとか、そういうのもやっていましたけど、そういうような呼びかけをすることによって、さらなる観光スポーツが広がっていくのかなと思うんですね。

やっぱり、目の前に何かちゃんと楽しいもの、いいものがあると、どこでも練習しようと思うたらできるんですけど、防府で練習して試合して帰れば何かいいことがあるというものが必要なのかなと、具体的なものが。そういったものが何か今後考えられているのかどうか、最後にお尋ねします。

○田村文化スポーツ観光交流部次長 今御指摘いただきました。誘致のためにスポーツの環境のほかにも観光の要素もしっかりと魅力をPRするというふうな御指摘いただきました。おっしゃるとおり、今、交流部一体となってチームで取り組んでおります。まさに、そこは観光の部門において、コンベンション協会がコンベンション誘致活動を熱心に取り組んでおります。

具体的には、今御案内のような、例えば特典であるとか、ちょっとしたサプライズのような演出を御提供するというふうなものが魅力につながると思っておりますので、これについてはまたコンベンション協会としっかりと議論をして、より魅力のある誘致につながるような取組をしていきたいと思えます。

○松村委員 じゃあ、いいです。

○今津委員 ちょっとみやすい質問ですけど、野球場のリニューアル記念事業で、ドリーム・ベースボールの開催を予定していますよね。それで、ここに書いてあるのが、プロ野球OBチーム、これは20名ぐらいを招待すると、こういうことのようにですけども、これは既に呼びかけはしておられるんだと思うんですけども、その辺の状況はいかがなのかちょっとお聞きしたいんですが。

○宇佐川スポーツ振興課長 ドリーム・ベースボールの開催の仕方といいますか、準備なんですけど、もともとこれは自治総合センターの事業ではあるんですけど、それを申請しまして、自治総合センターが株式会社ぎょうせいのほうにお願いされて、その株式会社ぎょうせいのほうで、今の野球選手のOB全体を取り仕切られるというか、調整されておら

れるんですよね。

なので、直接市が多く動けるものではございませんで……。

○三原委員 だから、ごめんなさい。話の途中、主催が違うということを言われとかんと、市が主催するとみんな思っている。市が主催するから、市がこういうふうにみんな動いて、選手を選別するとか、動いていると思うから。

○宇佐川スポーツ振興課長 そうですね。このドリーム・ベースボールというこの取組自体が、自治総合センターのほうの取組で、そこに市が手を挙げたというところでございます。すみません。

○今津委員 いや、僕は出る資格はないですけどね、昨日ね、それがね、昨日、居酒屋で食事しよったら、隣に座った人——隣に座った人というのは、毎年、華陽中学校に図書費を10万円寄附しよって人だけでも、具体的には言いませんよ、名前は。

その人（ ）はね、一緒に食事しよって、ちょっと掛布に電話してみようと言うて、掛布氏に電話したんですよ。非常に懇意な。そういうこともあったしね、それが、本市が呼ぶんなら、そういったと思ったんでね。

それとか、中日の谷沢ね。これ娘さんが誠英高校で何かスポーツやっていましたよね。バレーかね。そういった縁があったんで、防府がやるんならと思ったんだけど、そういうことなら結構です。ありがとうございます。

○久保委員 さっき松村委員からニュースポーツの話が出たので、情報提供といいますか、西浦の放課後子ども教室があるんですけど、これ毎年ですね地域の方がやっておられるペタンクと、あと、市民の方を招いてフロアカーリング——カローリングですかね、フロアカーリングかな——あとボッチャですね、それを毎年入れております。

普及というか、知らせていくというか、生涯学習課のほうにちょっとお願いして、こども教室のその行事の中にですねそれを取り入れてもらえんだろうかというのも一つの手かなと思うんですけど、一応お知らせということ、既に取り組まれているかもしれませんが、お知らせしておきます。

○高砂委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。いいですか、よろしいですか。

〔「進行」と呼ぶ者あり〕

○高砂委員長 ほかにないようでございますので、文化・スポーツ・観光の調査をこれで終了いたします。

以上で、総務委員会を閉会いたします。執行部の皆様、大変お疲れさまでした。退席ただいて結構です。いろいろ御準備等ありがとうございました。

以上で総務委員会を閉会いたします。皆さん大変お疲れさまでした。

午前 1 1 時 散会

防府市議会委員会条例第 3 0 条第 1 項の規定により署名する。

令和 6 年 5 月 1 0 日

防府市議会総務委員長 高 砂 朋 子